

生活を支える水道水

行仁小 六年 小龍 夕才

今年の一月一日に能登半島地震が発生しました。ぼくの家もかなりのゆれでとてもこわかったです。テレビやインターネツトのニュースでは、くずれた建物や割れてしまった地面の様子やひなん所にひなんをしている人達の様子が毎日流れていました。断水になっている地域には様々な場所から給水車が水を届けていました。

「水」は生活に欠かせないものなので、その様子を観て、改めて「水」が自由に使えるありがたさや大切さを感じました。そして、たくさんの方が「水」と関わって、人々の生活を支えていると思いました。

ぼくは、前に日本と外国の水道について調べました。日本では、水道の蛇口をひねるとおいしくてきれいな水が出てくるのは当たり前ですが、世界では水道があっても水道水を安心して使ったり飲んだりできない国の方が

多いです。家の水道の蛇口に届くまでの浄水の施設や水道管の整備がきちんと行われていないと、水道の蛇口から出る水を安全に飲んだり使ったりできないのです。

ぼくは、最近知っておどろいた事があります。日本全国の地下に埋まっている水道管の長さは約七十四万キロだそうです。どのくらいの長さかよく分かりませんでした。が、なんと地球十八・五周分だそうです。それは、地球から月までの往復する距離ともほぼ同じだそうです。

「そんなに長い水道管が日本の地下に埋まっているのか。」
「とてもおどろきました。」

ぼくたちが住んでいる日本ではたくさんの技術者の方や管理者の方が、そのとても長い水道管を二十四時間管理をして、水質を厳しくチェックをして下さっているおかげで、きれいで安全な水道水を、いつでもどこでも飲んだり使ったりする事ができます。

日本では、水道の蛇口から出た水をそのまま飲めないところは少ないそうです。そして、日本はそのような水道の技術と知識を他の国に支援や協力を行なっているのを知っています。いい事だと思いました。水道水が飲めない国でも日本のようにいつでもどこでも安んびてきれいな水を飲んだり使ったりできるようになると思います。

そして、今、日本ではちがいの地震などの災害時に備えて、水道管の耐震化を進めている事を知りました。揺れや地面の割れが起きても抜けにくい地震に強い水道管に取り替える工事が進んでいるそうです。日本の水道の技術はどんどん進化していて本当に素晴らしいと思います。

日本で、ぼくたちが、いつでもどこでも安心して水道水を飲んだり使ったりできるのは、水道の蛇口に届くまでの施設や整備や管理やたくさんの方々の働いている方々のおかげでとても幸せな事です。これから感謝して水を使っ

て行こうと思います。